

第 23 期火災予防審議会地震対策部会第 2 回小部会開催結果概要

1 開催日時

平成 29 年 12 月 4 日（月）11 時 30 分から 12 時 00 分まで

2 場所

TKP 新宿モノリスカンファレンスセンター カンファレンスルーム B1B
（東京都新宿区西新宿二丁目 3 番 1 号）

3 出席者

(1) 委員（6 名、敬称省略、五十音順）

新井雄治、市古太郎、糸井川栄一、加藤孝明、関谷直也、玉川英則

(2) 東京消防庁関係者（8 名）

防災部参事兼防災安全課長、震災対策課長、防災調査係長、防災調査係 5 名

4 議事

(1) 地震対策部会第 1 回小部会の開催結果概要について

(2) 審議事項

ア 各機関に対するヒアリングの結果について

イ 同時多発火災時の消防機関による覚知の検討について

5 配布資料

(1) 地小資料 2-1 地震対策部会第 1 回小部会の開催結果概要

(2) 地小資料 2-2 各機関に対するヒアリングの結果

(3) 地小資料 2-3 同時多発火災時の消防機関による覚知の検討

6 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

ア 地震対策部会第 1 回小部会の開催結果概要について

事務局より地小資料 2-1 について説明がなされた。

イ 各機関に対するヒアリングの結果について

事務局より地小資料 2-2 について説明がなされた。

ウ 同時多発火災時の消防機関による覚知の検討について

事務局より地小資料 2-3 について説明がなされた。

[議長]

地小資料 2-3 のヘリテレ映像でカバーはできると思うが最終的にタイムラグが問題になるのではないか。

[事務局]

ヘリテレ映像を見ることはできるが、これを地点情報として収集する手段が現時

点では存在しない。そのため、映像から地点を類推するしかなく人の介在が必要であり集約する際に時間がかかることが想定される。

[議長]

それでは集約する手段とタイムラグが生じリアルタイム性が無い。

[事務局]

そのとおり。現時点では、ヘリテレ映像を地点情報として収集する手段がないというのが現状である。

[議長]

リアルタイムで見るのは難しいということか。

[委員]

ヘリテレの映像をどうにか活用できないか。無線を用いて口頭で住所を伝えなくても、ヘリテレの映像で情報を収集できないか。

[事務局]

東日本大震災時の話では、ヘリから無線で報告を入れようとしたが取ってくれなかった。

[議長]

地上の東京消防庁指令室が取れなかったということか。

[事務局]

そのとおり。指令室内では多数の指令や無線で手一杯だった。ヘリテレと無線に関しては、パイロットへのヒアリングからヘリテレ用連絡無線はヘリに同乗する整備士と、地上の指令室及び作戦室との間で通信が可能であることが分かった。

また、航空波はパイロットと管制とのやりとりに使用されることから管制からの呼び出しに対応するために空けておきたいということであった。

(3) その他

事務局より第2回地震対策部会の開催時期について連絡した。

(4) 閉会